

誰もが社会の多様性を普通と
感じられるまちに――

長年さまざまな立場から、
障害者支援を続けている杉
本さん。バリアフリーでけ
てけ隊の活動では、障害者の
外出を促し、多様な人々と接
する機会を創出しています。

【ハードよりもハートから】
てけてけ隊のルーツは10
年前。身体・知的・精神の障
害者団体が、何か行動を起こ
そうと発足した「島田市障が
い者福祉連絡会」でした。

「連絡会発足の2年後、車
いすと盲導犬ユーザーの視
点から、商店街の利便性や周
辺道路の段差などを確認し
て巡りました。その際、外出
支援者にステッカーを配布
したのが『バリアフリーでけ
てけ隊』の始まりです。訪問
した店々で「改装は難しくて



も、こころのバ
リアフリーな
らば簡単な
もね」という
言葉と行動
に触れるこ
とができ、

その後の商店街探検やイベン
トにもつながりました」

【バリアを打ち消す経験値】
杉本さんは、海外で掛けら
れたある言葉が、今の活動に
もつながっている原点だと振



バリアフリーてけてけ隊 隊長
すぎもと ひとし
杉本 斉さん(稲荷四丁目)

り返ります。
「May I help you? 障害者
か健常者か以前に、言語も人
種も多様な北米で、さまざま
な場面で掛けてもらった言葉
です。日本ほど施設のバリア
フリー化が進んでいないから

こそ、ボランティアだけでな
く出来る人が出来ることをす
る精神が、行き渡っている文
化だと実感しました。『何かお
手伝いできることはありません
か?』の言葉は、助け合いほど
仰々しいものではなく、心遣

い。日本でも肩肘張らない声
掛けが日常になれば、多くの
バリアを打ち消すことができ
るはず。当事者に必要な
サポートは、人それぞれ。何
に配慮すべきなのかは、聞い
てみなければ分かりません。

だから、必要なのは接する機
会、経験値なんです」

【多様と配慮が普通のまち】
「てけてけ隊には、多くの子
どもや学生ボランティアが参
加してくれています。障害者
と触れ合う中で、世の中には
いろいろな人がいて生き方が
あること、その『いろいろ』が
一緒に暮らす社会こそが普通
なのだと感じてもらえたら、
こころのバリアフリー化です
よね。当事者が外出すること
で、周囲はそのニーズを知る
ことができます。体験するこ
とで気付きが生まれ、配慮に
つながる。それは健常者に
とっても、例えば高齢になっ
た時に必要な、暮らしの安全
安心なんです。地域のために
何が必要か、他者の立場で考
えを深めていくことは、まさ
にまちづくり。簡単ではない
けれど、てけてけ歩みますよ。
やり続けなければ、次につな
がらないですからね」

みんなから、父親のように
慕われている杉本さん。その
ゴツゴツした優しい手は、い
つも子どもたちを分け隔てな
く包み込んでいます。



いろいろな笑顔に出会
える、てけてけ隊のイ
ベント会場「おび通り」

Shimadajin File #129

島田
Story 人田